

今年は4年ぶりに、ハートフル・コンサートを開催します。美しい音楽の花束を通して、神様の愛が、集う方々に届く事を祈っています。豊かな賜物を持つ演奏者の方々に、ますます主の祝福があるようにとも、心から祈ります。

神様は厳しい方か？

今朝のイエス様のたとえ話は、よく似た話がマタイにあります。才能のある人を指す「タレント」の語源になった「タラントンのたとえ」です。細かい違いはありますが、共通していることに、結論に王様（あるいは主人）の厳しい裁きが待っていることがあります。「聖書は愛を語るのではないのか」と疑問に思う終わりかたです。

今朝の箇所も、三番目の僕は「悪い僕だ」と叱責されています。王様のお金を、無くしたわけでもないのに、ひどい言われようです。自分は、神様からどのように見られているのか、と思う時、この僕のように思われていたらどうしよう、と少し不安になります。聖書は、私たちの信仰をチェックしようとしているのでしょうか。

謙遜と卑屈、この両者は、一見少し似ています。どちらも自分を周りより低く見せるからです。しかし実は、謙遜が忠実と姉妹であるように、卑屈は傲慢の兄弟だといえます。一方は「なんとかして役に立ちたい」という願いがその心の内にあるのに対し、もう一方は「本当ならやりたくない」という気持ちを隠しているからです。

イエス様の言葉は鋭くその本質をついているので、厳しく聞こえるのでしょうか。

結果にコミット

「タラントンのたとえ」との違いの一つは、僕の人数です。僕は10人いました。しかし、どうやら熱心に励んだのは2人だけのようです。残りの8人は、ハンカチに包んで無為に過ごしたのです。ビジネスの世界でも、10人の組織があれば、リーダーに忠実なのは1割で、1割は反対者で、8割は中立だ、とよく言われます。また、「急ぎの仕事は、忙しい人に頼め」とも言われます。手が空いているように見える人は、結局やる気がないので、時間があっても力にはならないという訳です。

エルサレムの門前町、エリコのザアカイの家で、イエス様はこのたとえを弟子たちに語られました。ザアカイは経営者でしたから、この話にきくと深く共鳴したでしょう。そして、それまでの7人のうちの一人だった生き方から、忠実で謙遜な僕の一になりました。その喜びを、彼は証ししています。

聖書が語る「忠実」は、世間一般で言われる「まごころを持ってよくつとめること」という意味合いと、少し違う部分があります。それは、「結果を残すこと」です。控えめである必要はありません。むしろ、熱心に仕えることこそ、謙遜さの証しです。エルサレムに入場するイエス様が、後に続けと私たちを招いています。